

生研ニュース

生産技術研究所協議会の初代会

生産技術研究所の使命達成の爲、廣く學外の學識経験者の意見を傾聴する目的で設けられた協議会の、第1回会合が年もおしつまつた12月14日、東京大學で開催された。出席協議員は石川一郎氏(經濟團體連合會々長)外14名、これに生研側から所長並びに教室主任等が列席した。まず協議員の互選で會長に石川氏を推して議事を進行。席上討議された主要事項は下記の通りである。

A 総合研究の振興へ

生研側から共同研究班として活動中の「アルミニウム及びその合金を一般に活用する研究班」を総合研究の一例として紹介した。

大西協議員(日立製作所) 組立式住宅は外國に例がある。スレート替りにアルミの屋根板を考へることは一番見込が多いと思うが、その際アルミの純度が問題とならう。

坪井教授 試作中の輕金屬住宅はトラック1台で材料が運べるもので設備を入れて見ぬと確實に分らぬが、坪4萬圓くらいになると思う。

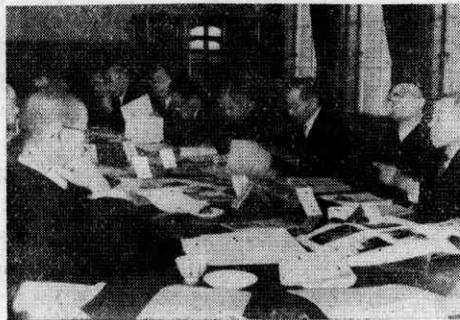
B 生産の現場と研究所との連絡は
新谷協議員(日本製鋼所) 工場をよく見、よく知つて貰うことを希望する。ただしそれは一工場の見學に終るものでなく、鐵鋼業なら鐵鋼業を視察する意味のものであつて欲しい。日本産業協議會と連絡の上、この実行に努力願いたい。

C 生産技術の方向

井口協議員(静岡大學) 最近外國船建造の注文が相當入つて來ているが造船技術と經濟の面から、アルミを船體の相當の部分に利用することの開拓を希望する。

湯川協議員(日本製鐵) 鋼を強度の高い高級鋼材を使うことに研究願いたい。且つ冶金・建築・造船等の各角度から攻めていつて貰いたい。

重光協議員(日本海事協會) 鋼を高性能のものにすることは可。又ガス



タービン用などを高熱に耐え得るもの考へて欲しい。

金森教授 鋼に付ては材料的な研究は進んでいるが、精練的研究はおくれているから生研としてはこの方面に力を注ぎたい。

稻生協議員(三菱重工業) 熔接技術は材料の點でおくれている。熔接棒も熔劑も共によくできない。米國の進歩はとくに著しい。しかも生産が安く良くなつてゐる。熔接問題は第一に取上げらるべき問題と思う。

D 研究成果の發表と發明特許

大西協議員 生研受託規程第9條に研究發表の保留期間を2年と定めてあるも、その取扱については問題があるらう。即ち研究が完成した頃は概ね特許等で利益が保護されるが研究過程の着想は發表されないように考慮されたい。

稻生協議員 日本學術會議の中の委員會では任務發明の取扱に付て研究中である。特許法では特許權は發明した人に興えられ、實施權はその機關が保有することに規定されているが任務上發明した場合には、特許權を官の機關で承繼して發明者には別途に補償することにしたいという方向に進んでいる。また委託研究における發明特許の場合では、特許權を受託者に、實施權を委託者に與えることが妥當ではないかと思う。

E その他の意見

井口協議員 生研の陣容に少しプラスすればその事業が達成できると見られるものは、協議會でその方法を考へてやりたい。

石川會長 受託規程を早く取上げて貰つて受託研究が軌道にのれば問題はないと思う。(註: 受託規程と發明規程は目下手續中)

石川會長 協議會は全員の會合のほか、關係のグループだけの集りも

よい。

瀬藤所長 或専門の部會とか懇談會というような形でそうした集りをお願いしたいと思う。

共同研究班の紹介

或特定の研究課題に對しては多角的且つ總的に研究しなければ成果の

舉らない場合が多い。この意味から當所では各種の問題に對し、各關係専門分野の人達が協力して研究班(Research team)を結成して強力に研究を推進している。現在迄に結成された研究班の主なものには、アルミニウムに關するもの、電子顯微鏡に關するもの、精紡機の高能率化を目指したもの、製鹽副産物の利用に關するもの、その他があるが、今、その内でアルミニウムに關する研究班の内容の一班を御紹介すると次の通りである。

AURC(Aluminium Utilization Research Committee)

構造物に對するアルミニウム及びその合金の活用に關する研究班で、17名の教授・助教授が協力し、冶金・物理・化學的研究及び造船・建築・橋梁車體等への活用研究を行う。尙本研究班には分科班として、

(1) 耐蝕輕合金製救命艇研究班

耐蝕輕合金を使用して船舶の性能を向上させようとするのが目的で、その第一着手として8m救命艇を設計試作する。船舶關係者が主となつて推進している。

(2) 輕金屬住宅研究班

金屬の生産加工設備を有効に活用して、量産的に不燃性の組立住宅を供給する目的で、基礎設計・細部計畫・構造計畫・環境計畫・材料計畫等につき、建築及び冶金關係の研究員が主動的立場で進行している。

當研究所には、各専門分野の人達がそろつてゐるので、こうした研究方法を採るのに便宜が多いし、又それが當所の特長でもある。

(寫眞は第1回生研協議會)

★ ★ ★

☆ ☆ ☆